

⑧ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率「データ分析とプログラミング」 ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「データ分析とプログラミング」 ・相関係数、相関関係と因果関係「データ分析とプログラミング」 ・ベクトルと行列「データ分析とプログラミング」 ・ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積「データ分析とプログラミング」 ・行列の演算、行列の和とスカラー倍、行列の積「データ分析とプログラミング」 ・関数の傾きと微分の関係、積分と面積の関係「データ分析とプログラミング」 ・1変数関数の微分法、積分法「データ分析とプログラミング」
	1-7	・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「データ分析とプログラミング」 ・ソートアルゴリズム(バブルソート、選択ソート、挿入ソートなど)「データ分析とプログラミング」 ・計算量(オーダー)「データ分析とプログラミング」
	2-2	・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「データ分析とプログラミング」 ・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「データ分析とプログラミング」 ・配列、木構造(ツリー)、グラフ「データ分析とプログラミング」
	2-7	・文字型、整数型、浮動小数点型「データ分析とプログラミング」 ・変数、代入、四則演算、論理演算「データ分析とプログラミング」 ・配列、関数、引数、戻り値「データ分析とプログラミング」
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・データ駆動型社会、Society 5.0「データ分析とプログラミング」 ・データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)「データ分析とプログラミング」
	1-2	・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データ分析とプログラミング」 ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「データ分析とプログラミング」 ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「データ分析とプログラミング」 ・データの収集、加工、分割/統合「データ分析とプログラミング」
	2-1	・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「データ分析とプログラミング」 ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「データ分析とプログラミング」 ・ビッグデータ活用事例「データ分析とプログラミング」
	3-1	・AIの歴史、推論、探索、トイプロBLEM、エキスパートシステム「人工知能応用基礎論」 ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「人工知能応用基礎論」 ・フレームワーク問題、シンボルグラウンディング問題「人工知能応用基礎論」 ・人間の知的活動とAI技術(学習、認識、予測・判断、知識・言語、身体・運動)「人工知能応用基礎論」
	3-2	・AI倫理、AIの社会的受容性「人工知能応用基礎論」 ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「人工知能応用基礎論」
	3-3	・実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など)「人工知能応用基礎論」 ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「人工知能応用基礎論」 ・学習データと検証データ「人工知能応用基礎論」 ・ホールドアウト法、交差検証法「人工知能応用基礎論」 ・過学習、バイアス「人工知能応用基礎論」
	3-4	・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「人工知能応用基礎論」 ・深層強化学習「人工知能応用基礎論」 ・ニューラルネットワークの原理「人工知能応用基礎論」 ・ディープニューラルネットワーク(DNN)「人工知能応用基礎論」 ・学習用データと学習済みモデル「人工知能応用基礎論」
	3-5	・実世界で進む生成AIの応用と革新(対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など)「人工知能応用基礎論」 ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「人工知能応用基礎論」 ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)「人工知能応用基礎論」
	3-10	・AIの学習と推論、評価、再学習「人工知能応用基礎論」 ・AIの開発環境と実行環境「人工知能応用基礎論」
(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I	・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「データ分析とプログラミング」 ・相関係数、相関関係と因果関係「データ分析とプログラミング」 ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「データ分析とプログラミング」 ・ソートアルゴリズム(バブルソート、選択ソート、挿入ソートなど)「データ分析とプログラミング」 ・変数、代入、四則演算、論理演算「データ分析とプログラミング」 ・配列、関数、引数、戻り値「データ分析とプログラミング」
	II	・ディープニューラルネットワーク(DNN)「人工知能応用基礎論」 ・AIの学習と推論、評価、再学習「人工知能応用基礎論」

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

・本プログラムでは、実データを対象とした分析およびAIの活用を自律的に実施できる応用力をリテラシーレベルよりも高いレベルで身に付ける。
 ・数理・統計・データサイエンス・AIに関する知識を体系的に深化させることで、課題設定からデータ収集、前処理、分析、評価に至る一連のプロセスを理解し、適切な手法を選択・適用できる能力を修得する。

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	205	人
(非常勤)	86	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

2	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	重安 哲也
(役職名)	地域創生学部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	地域創生学部 数理・データサイエンス教育検討委員会(応用基礎)
------	---------------------------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	地域創生学部 数理・データサイエンス教育検討委員会(応用基礎)運営内規
------	-------------------------------------

⑥ 体制の目的

地域創生学部内に数理・データサイエンス教育検討委員会(応用基礎)を設置し、数理・データサイエンス・AI(応用基礎レベル)の教育カリキュラム編成および長期的な基本方針の策定を行う。
また、本委員会は、当該教育プログラムの実施状況や学修成果を踏まえた評価を行い、その結果に基づき、プログラムの普及、点検および改善を継続的に実施することで、教育の質保証と高度化を図る。

⑦ 具体的な構成員

地域創生学部 数理・データサイエンス教育検討委員会(応用基礎)

- ・重安 哲也(委員長, 地域産業コース(情報分野) 教授)
- ・鄭 遇澤(委員, 地域文化コース 准教授)
- ・村上 恵子(委員, 地域産業コース(経営分野) 教授)
- ・辻 文(委員, 健康科学コース 准教授)
- ・富田 哲治(委員, 地域産業コース(情報分野) 教授)
- ・佐々木 宣介(委員, 地域産業コース(情報分野) 准教授)
- ・岡部 正幸(委員, 地域産業コース(情報分野) 准教授)

※令和8年度以降, 所属は次のように変更

地域産業コース(情報分野): 情報学科
 地域産業コース(経営分野): 経営コース
 地域文化コース: 国際共生コース

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	4%
令和8年度予定	10%
令和9年度予定	13%
令和10年度予定	17%
令和11年度予定	20%

具体的な計画

令和8年度は、初年次ガイダンスや履修指導の機会を活用し、プログラムの意義、学修成果、将来の進路との関係性を具体的に周知することで履修への動機付けを図り、履修率10%の達成を目指す。令和9年度は、年次進行により、対象学生の最高年次が3年となることを踏まえ、各専門分野との関連性を一層明確化し、履修に対する不安や負担感の軽減を図ることで履修意欲を高め、履修率13%の達成につなげる。令和10年度以降は、履修状況および単位取得状況を継続的に把握し、履修負担や科目配置の妥当性を検証する。あわせて、既存科目の時間割配置の見直し等により履修しやすさを向上させ、履修継続を支援する体制を整備することで、令和10年度17%、令和11年度20%と段階的な履修率向上を図り、本プログラム定着を目指す。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

情報学を専門とする学生以外にも履修が可能となるよう、学部すべての学生が履修できる学部共通科目に本教育プログラムの対象科目を配置し、学科・コースの所属を問わず希望者全員の受講機会を確保する。
また、履修ガイダンス等を通じて当該科目の周知を行うとともに、時間割配置や履修制約に配慮することで、学生が履修しやすい環境を整備する。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

各年度の履修登録や履修科目の指導を行う対面でのオリエンテーションや、学生向けポータル配信を通じて、本教育プログラムの概要や対象科目について対象学生全員に周知を行う。
また、履修モデルや到達目標を明示することで、学生が計画的に履修できるよう支援する。
さらに、学生の習熟度に応じて適切な学年で受講できるよう、配当年次を1年次から4年次まで設定し、できる限り多くの学生が履修できる教育課程を整備している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

数学的な基礎知識が十分でない学生であっても授業内容を理解できるよう、授業教材をクラウドシステム上でいつでも参照可能とし、繰り返し学習を支援する体制を整備している。

また、授業内外における質問対応や補足説明を行うとともに、必要に応じて個別の学修支援を実施することで、学生の理解度に応じたきめ細かな指導を行う。

さらに、学修状況を把握し、つまづきが見られる学生に対して適切なフォローを行うなど、継続的な学修支援体制を構築している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業担当教員が設定するオフィスアワーを活用し、授業時間外における質問対応を行っている。

また、授業支援のために履修者を登録するLMS(学習管理システム)上において、学生が随時質問できる環境を整備し、非対面でも継続的な学修支援を可能としている。

さらに、授業時間内においても適宜質疑応答の機会を設けるとともに、必要に応じて個別対応を行うことで、学生の理解度に応じた指導を実施している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 地域創生学部 数理・データサイエンス教育検討委員会(応用基礎)

(責任者名) 重安 哲也
(役職名) 地域創生学部 数理・データサイエンス教育検討委員会(応用基礎)委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		「データ分析とプログラミング」および「人工知能応用基礎論」は、いずれも地域創生学部の全学生が履修可能な学部共通科目(選択)として、令和7年度入学者以降を対象に新設した科目である。 令和7年度における履修者数は、「データ分析とプログラミング」が28名、「人工知能応用基礎論」が19名であり、両科目とも単位取得率は100%と良好な履修・修得状況となっている。 一方で、履修者数は今後さらに増加が見込まれることから、履修機会の拡充に向けて、教室配置等の環境整備について検討を行う予定である。
学修成果		本学では、毎学期末に「学生による授業評価・授業改善のためのアンケート」を実施している。 令和7年度における「データ分析とプログラミング」および「人工知能応用基礎論」のアンケート回収率はそれぞれ64.3%、42.1%であった。 「この授業の目標とする力(知識や技能など)が身に付くか」を問う設問において、全ての回答者が「そう思う(強くそう思うを含む)」と回答しており、「総合的に判断して、この授業に満足しているか」についても同様に高い評価が得られている。 また、両科目とも単位取得率は100%であり、これらの結果から、受講学生は概ね学修目標を達成していると判断できる。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		毎学期末に実施している「学生による授業評価・授業改善のためのアンケート」における令和7年度の「データ分析とプログラミング」および「人工知能応用基礎論」の結果では、「この授業の課題の内容・量は適切である。」との設問に対し、全ての回答者が肯定的に回答している。 また、「授業時間外に取り組むべき課題が示されているか」に対しては、それぞれ83%、87%が肯定的に回答しており、適切な学修機会が提供されていることが確認できる。 さらに、「授業に集中し真剣に取り組んでいるか」に対しても全ての回答者が肯定的に回答していることから、学生の主体的な学修態度が形成されている。 これらの結果は、適切な課題設定および学修機会の提供を通じて、学生の授業内容に対する理解が促進されていることを示している。 今後は、これらの結果を踏まえ、より一層の理解度向上に向けた授業改善を継続的に実施する。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		令和7年度の「データ分析とプログラミング」および「人工知能応用基礎論」に対する授業評価・授業改善アンケートの結果では、両科目とも、「総合的に判断して、この授業に満足しているか」を問う設問に対し、全ての回答者が肯定的に回答している。 また、「学修活動に対して必要な支援を得ているか」に対しても、全ての回答者が肯定的に回答しており、学修環境に対する高い評価が得られている。 さらに、自由記述欄においては、授業内容の分かりやすさや演習の有用性に関する肯定的な意見が多く見られ、本授業の履修に対する満足感が確認されている。 これらの結果から、本プログラムは受講学生の満足度が高く、他の学生に対しても履修を推奨し得る教育内容であると評価できる。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		学部共通の選択科目として配置している「データ分析とプログラミング」および「人工知能応用基礎論」については、令和7年度において他の選択科目と時間割が重複していたことから、情報分野以外に所属する学生の履修登録が少ない状況であった。 この課題に対して、令和8年度は他科目との重複を可能な限り回避した時間帯への配置変更を行い、履修機会の改善を図った。 これにより、情報分野以外の学生にとっても履修しやすい環境の整備が進んでいる。 今後は、履修状況の分析に基づき、履修ガイダンスの充実や履修モデルの提示などの履修促進施策を併せて実施し、履修者数および履修率のさらなる向上を図る。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		本教育プログラムは令和7年度入学者以降を対象として新設されたものであり、現時点では修了者は在学中であるため、卒業生の進路や企業等からの評価についての実績は蓄積途上にある。 一方で、本学においては、情報分野以外に所属する学生であっても情報通信業に就職する卒業生が一定数存在していることが確認されている。 また、近年では情報通信業に限らず、多くの企業においてDX人材の育成・確保が求められていることから、本教育プログラムにより修得されるデジタル知識・技能に対する社会的ニーズは高いと考えられる。 今後は、卒業生の進路状況や企業からの評価について継続的に把握し、本教育プログラムの改善に活用していく予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		近年、産業界においては、データに基づく意思決定やAIの活用を担う人材の育成が強く求められており、専門分野に加えてデータサイエンスを活用できる人材へのニーズが高まっている。 本学では、情報分野の学生を対象としてIT企業を学内に招き、半日間のワークショップを共同で実施しており、企業担当者からは本学学生の基礎的な情報処理能力や課題解決能力について高い評価を得ている。 これらの評価は、本学における情報教育の有効性を示すものであり、本教育プログラムにおいても同様の能力の育成を図ることで、産業界の要請に対応した教育内容となっている。 今後は、企業等からの意見を継続的に収集し、教育内容や教育手法の改善に反映することで、より実践的な教育プログラムの充実を図る。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		本教育プログラムでは、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」および「学ぶことの意義」を理解させるために、実データを用いた演習や身近な課題を題材とした授業を実施している。 これにより、学生がデータ分析やAI技術の有用性を実感しながら主体的に学修に取り組むことを促している。 また、これらの知識や技能が社会や将来の進路においてどのように活用されるかを示すことで、学修意欲の向上を図っている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		本教育プログラムでは、内容および水準を維持・向上しつつ、学生にとって分かりやすい授業を実現するため、基礎から応用へと段階的に理解を深める授業設計を行っている。 また、「データ分析とプログラミング」および「人工知能応用基礎論」の両科目において、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムが策定したモデルカリキュラムに準拠した教科書を共通して採用することで、教育内容の体系性および水準の妥当性を確保している。 これにより、学生は一貫した枠組みの中で数理・データサイエンス・AIの知識を理解することが可能となり、学修内容の定着および理解の深化を促進している。 さらに、社会の変化や生成AI等の技術動向を踏まえ、授業内容や教材の見直しを適宜行うとともに、学生アンケート等の結果を基に継続的な授業改善を実施することで、教育効果の向上に取り組んでいる。

授業科目名	人工知能応用基礎論		
担当教員名	松井猛		
研究室の場所	広島キャンパス1644研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業形態	対面		
授業の形式・方式	対面授業 毎回授業で提出される小テスト・演習課題を回答し提出する。		
単位数（時間数）	2（30）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	地域創生学部学科共通 1 年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	人工知能（AI），機械学習，深層学習，ロボット制御，自然言語処理，パターン認識，生成AI		
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	数理・データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル）の教育を補完的・発展的に学び，データから意味を抽出し，現場にフィードバックする能力，AIを活用し課題解決につなげる基礎能力を修得すること，そして，自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得することを目標とする。 学修の到達目標： ①知識・技術の観点「人工知能の技術が応用できる」， ②思考・判断・表現の観点「人工知能の動作を表現できる」， ③主体性・協働性の観点「課題に対し人工知能技術を応用することができる」		
授業の内容	AIの基礎として，まずAIの歴史，基本的な考え方などを学修し，次にAIがデータから何をどう学ぶかという機械学習全般の基礎について学修する。さらに機械学習で中心となっている手法である深層学習の基礎を学修する。最後にAIの中心的な領域である，ロボット，画像・音声認識，自然言語処理，生成AIについてその基礎を学修する。		
成績評価の方法	・小テストおよび演習 40点（到達目標①②③） ・筆記試験 60点（到達目標①②③）		
テキスト	北川，竹村編，赤穂他著，データサイエンス入門シリーズ 応用基礎としてのデータサイエンス 改訂第2版 AI×データ活用の実践，講談社，2025年（ISBN-13:978-4065386187）		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考（履修上のアドバイス・禁止行為等）	予習と復習をしっかりと行うこと。小テスト・演習課題は必ず自ら行うこと。		

授業計画		準備学習
第1回	3.1 AIと社会(1) ・AIの歴史，推論，探索，トイロBLEM，エキスパートシステム	・AIとは何かを調べておくこと
第2回	3.1 AIと社会(2) ・汎用AI／特化型AI（強いAI／弱いAI） ・AI倫理，AIの社会的受容性 ・プライバシー保護，個人情報の取り扱い	・AIが対応できている問題，対応できていない問題はどのようなものがあるか調べておくこと ・AIを扱う上ではどのようなことに気をつけないといけないか考えておくこと
第3回	3.1 AIと社会(3) ・AIの学習と推論，評価，再学習 ・AIの開発環境と実行環境	・AIを用いたシステムの開発プロセスについて調べておくこと
第4回	3.2 機械学習の基礎と予測手法(1) ・機械学習，教師あり学習，教師なし学習，強化学習	・機械学習の基本的な枠組みや手順を調べておくこと
第5回	3.2 機械学習の基礎と予測手法(2) ・過学習，バイアス ・学習データと検証データ ・ホールドアウト法，交差検証法	・汎化という考え方や，モデル選択について調べておくこと ・正則化法と，スパースモデリングについて調べておくこと ・交差検証法によるモデル選択の方法について調べておくこと
第6回	3.2 機械学習の基礎と予測手法(3) ・決定木(Decision Tree) ・実世界で進む機械学習の応用と発展（需要予測，異常検知，商品推薦など） ・ROC曲線，AUC (Area Under the Curve)	・得られた結果を定量的に評価する指標について考えておくこと ・新たな入力に対する出力を予測する手法を調べておくこと
第7回	3.3 深層学習の基礎(1) ・ニューラルネットワークの原理	・深層学習の構成要素を調べておくこと ・ニューラルネットワークの構成要素を調べておくこと
第8回	3.3 深層学習の基礎(2) ・ディープニューラルネットワーク(DNN)	・パラメータとは何か調べておくこと
第9回	3.3 深層学習の基礎(3) ・確率的勾配降下法（SGD） ・誤差逆伝播法	・パラメータとは何か調べておくこと

第10回	3.3 深層学習の基礎(4) ・学習用データと学習済みモデル	・パラメータを学習させるにはどのような方法が適切か考えておくこと
第11回	3.3 深層学習の基礎(5) ・畳み込みニューラルネットワーク ・リカレントニューラルネットワーク ・グラフニューラルネットワーク ・実世界で進む深層学習の応用と革新（画像認識，自然言語処理，音声生成など）	・ニューラルネットワークを拡張したものにどのようなものがあるか調べておくこと ・深層学習を応用したものにどのようなものがあるか調べておくこと
第12回	3.4 ロボット，認識，言語(1) ・AIとロボット ・家庭用ロボット，産業用ロボット，サービスロボット ・認識技術の活用事例 ・パターン認識，特徴抽出，識別 ・数字認識，文字認識	・ロボットとAIの関係にどのようなものがあるか考えておくこと ・AIによるパターン認識，ジェスチャー認識について調べておくこと
第13回	3.4 ロボット，認識，言語(2) ・自然言語処理の活用事例 ・形態素解析，単語分割，係り受け解析	・言語データに対して，AIがどのような用途で利用できるか考えておくこと
第14回	3.4 ロボット，認識，言語(3) ・特徴抽出 ・continuous bag of words (CBOW) 法 ・Skip gram法	・言語データに対して，AIがどのような用途で利用できるか考えておくこと
第15回	3.5 生成AI ・実世界で進む生成AIの応用と革新 ・基盤モデル，大規模言語モデル，拡散モデル ・生成AIの留意事項	・生成AIの基本的な概念と応用について調べておくこと
第16回	期末試験	
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	データ分析とプログラミング		
担当教員名	野呂正明		
研究室の場所	広島キャンパス1643研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(他の用事とのバッティングを避けるため、メールやTeamsで予約することが望ましい)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業形態	対面		
授業の形式・方式	毎回1時間程度は講義を行い、その後、小テストを行う。 ・プログラミングやデータベースについては、実際にプログラミングやデータベースの操作をコンピュータを用いて行ってもらう。 ・小テストや演習の結果をオンラインで提出してもらう。 ・期末テストと提出物の採点結果をあわせて評価する		
単位数(時間数)	2(30)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	履修登録者が、使用する教室の収容人数を超える場合は抽選で履修者を決定する。		
免許等指定科目			
キーワード	数理, データサイエンス, データエンジニアリング, データ分析, プログラミング		
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	カリキュラム上の位置づけ： ・数理・データサイエンスにおける、データから意味を抽出し、他者に伝える能力を身につけること、データ分析のためのプログラムを作成するための基礎能力を修得すること。 学修の到達目標： ①知識・技能の観点「データを持つ意味を数式などで明確にする方法および、データをわかりやすく可視化する方法を理解できる」 ②思考・判断・表現の観点「実際のデータを分析し、データの持つ特性を他者にわかりやすく可視化することができる」		
授業の内容	最初に、データサイエンスとデータエンジニアリングのために必要なプログラミングとデータベースの基本的なコンセプトについて学習する。これにより、非常に簡単なプログラミングやデータベースの操作を可能にする。これに続けて、データサイエンスの基礎となる数学の知識を学んだ後、データの分析手法を学習すると共に、演習で実際に行うことで身につける。		
成績評価の方法	・筆記試験 40点(到達目標①) ・小テストおよび演習 60点(到達目標①②)		
テキスト	北川, 竹村編, 赤穂他著, データサイエンス入門シリーズ 応用基礎としてのデータサイエンス 改訂第2版 AI×データ活用の実践, 講談社, 2025年		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	・毎回の小テストは締切後は期末テストの演習として使えるように設定を変更するため、期末テストの演習として活用してください。 ・期末テストは紙資料の持ち込みを許可するため、配布資料、小テストやその正解は印刷すること。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 ICTメーカの研究所および開発部門での勤務経験のある教員が、その経験を活かし、データサイエンスとデータエンジニアリングのために必要なプログラミング、データベース活用、データ分析の基本的な手法を演習を併用して解説する。		

授業計画		準備学習
第1回	1.1 データ駆動型社会とデータ分析の進め方 ・データ駆動型社会とSociety 5.0 ・データサイエンス活用事例 ・データ分析の進め方(仮説検証サイクル)	・データサイエンスが活用されている事例(ビジネス、サービス)を調べておくこと
第2回	2.1 ビッグデータとデータエンジニアリング ・情報通信技術(ICT)の進展とビッグデータ ・コンピュータで扱うデータ ・データガバナンス	・データガバナンスについて調べておくこと。
第3回	2.1 ビッグデータとデータエンジニアリング(続き) ・Internet of Things (IoT) ・ビッグデータ活用事例 ・コンピュータ、ネットワークの仕組み ・データの収集	・自分の身の回りでインターネットにつながっている機器を探しておくこと
第4回	2.2 データ表現, プログラミング基礎, アルゴリズム基礎(1) ・データ表現 ・プログラミング基礎	・プログラミングについて調べておくこと
第5回	2.2 データ表現, プログラミング基礎, アルゴリズム基礎	・アルゴリズムと計算量について調べておくこと

	(2) ・アルゴリズム基礎	
第6回	2.2 データ表現, プログラミング基礎, アルゴリズム基礎 (3) ・プログラミング演習	・データの並び替え方法, データの探索について調べておくこと
第7回	2.3 データの収集と加工, データベース ・データの整形・加工 ・データの集計 ・データベース管理システムの利用	・データベースについて調べておくこと
第8回	2.3 データの収集と加工, データベース ・データベース演習	・マイクロソフトAccessについて調べておくこと.
第9回	2.4 ITセキュリティ ・情報セキュリティの基礎概念 ・暗号化 ・電子署名 ・認証 ・プライバシー保護	・暗号, 電子署名, 認証について調べておくこと
第10回	1.2 データの記述 ・種々のデータ ・基本統計量 (代表値, 散らばりの指標) ・量的×量的データの要約	・平均値, 標準偏差, 相関係数について調べておくこと
第11回	1.3 データの可視化 ・ヒストグラム, パレート図, ヒートマップ他 ・ビッグデータの可視化	・ヒストグラムについて調べておくこと
第12回	1.4 データ分析の手法(1) ・単回帰分析 ・最小二乗法 ・重回帰分析	・一次関数, 最小二乗法について調べておくこと
第13回	1.4 データ分析の手法(2) ・ロジスティック回帰分析 ・時系列データ分析 ・アソシエーション分析	・時系列データ分析, アソシエーション分析について調べておくこと
第14回	1.4 データ分析の手法(2) ・クラスター分析	・クラスター分析を調べておくこと
第15回	1.5 数学基礎 ・微分積分基礎 ・線形代数基礎 (ベクトル, 行列) ・確率・統計基礎 (順列, 組合せ, 確率)	・微分, 積分, ベクトル, 行列, 順列, 組合せ, 確率について調べておくこと
第16回	期末テスト	
授業計画		
シラバス備考		

URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

□ 地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース（令和7年度入学生用）

科目区分 コア・ユニット		科目名	配当年度	開講期				単位数		授業 時間数	卒業 要件	担当教員 (非常勤) ☆マークは代表教員	備考
				前 前	前 後	後 前	後 後	必 修	選 択				
学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シ ー	大学基礎セミナーⅠ	大学基礎セミナーⅠ	1	○				1		30	12単位以上	☆重安、植村、鄭遇、足立、加納、 小川仁、松本、辻愛、原田淳、松高	
		大学基礎セミナーⅡ	1		○			1		30		☆銀島、鄭銀、工藤、長桶、市村、 広谷、韓、栢下、古田、川畑	
		ICTリテラシーⅠ	1	○				1		30		佐々木、陳春、肖、小川仁、重安、岡部	
		ICTリテラシーⅡ	1			○			1	30		佐々木、陳春、肖、小川仁、重安	
		英語総合Ⅰ	1	○	○			1		30		(笠本)、(黒住)、(ホーソン寿栄)	
		英語総合Ⅱ	1			○	○	1		30		草薙、(笠本)、(黒住)、(ホーソン寿栄)	
		英語総合Ⅲ	2	○	○				1	30		(西原)、(ホーソン寿栄)、(黒住)	
		英語総合Ⅳ	2			○	○		1	30		(西原)	クラスにより開講期異なる
		英語表現Ⅰ	1	○	○			1		30		(チャップマン)、(リー)、(カゼミ)	
		英語表現Ⅱ	1			○	○	1		30		(チャップマン)、(リー)、(カゼミ)	
		英語表現Ⅲ	2	○	○				1	30		(ボールドウィン)、(スティチェック)	
		英語表現Ⅳ	2			○	○		1	30		(ボールドウィン)	
		中国語Ⅰ	1・2	○	○				1	30		(袁)、(徐)	クラスにより開講期異なる 中国語・韓国語・ドイツ語は 各言語の母語話者、及び授 業の目標・内容を上回るこ とが明らかなレベルの言語能 力を履修登録時にすでに有 する者の受講は認めない。
		中国語Ⅱ	1・2			○	○		1	30		(袁)、(徐)	
		韓国語Ⅰ	1・2	○	○				1	30		鄭遇、鄭銀、(鞠)	
		韓国語Ⅱ	1・2			○	○		1	30		鄭遇、鄭銀、(鞠)	
		ドイツ語Ⅰ	1・2	○	○				1	30		(小田)	
		ドイツ語Ⅱ	1・2			○	○		1	30		(小田)	
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2	○					1	30	中石	外国人留学生のみ対象		
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2		○				1	30	中石			
	スポーツ実技Ⅰ	1			○	○	1		30	辻文、(村上純)、(黒坂)	クラスにより開講期異なる		
	スポーツ実技Ⅱ	2			○			1	30	辻文			
	保健体育理論	2				○		2	30	辻文			
	学 際 知	哲学	1・2・3・4	○					2	30	10単位以上	大草	
		文学	1・2・3・4		○				2	30		福田	
		芸術	1・2・3・4			○			2	30		(佐々木悠)	
		心理学	1・2・3・4				○		2	30		向居	
		社会学	1・2・3・4	○					2	30		澤田	
		歴史学	1・2・3・4		○				2	30		岡本	
		倫理学	1・2・3・4			○			2	30		大草	令和7年度のみ第20開講
		経済学	1・2・3・4	○					2	30		山根	
		科学史	1・2・3・4	○					2	30		☆村田、馬本、菅、福永、八木、米村、 岩田、小林、長尾、吉野智、松崎	
		生命倫理	1・2・3・4		○				2	30		☆吉川、古山	
		基礎数学	1・2・3・4			○			2	30	富田哲		
		統計入門	1・2・3・4				○		2	30	富田哲		
		家族社会学	1・2・3・4				○		2	30	澤田		
文化人類学		1・2・3・4	○					2	30	上水流			
日本国憲法		1・2・3・4	○					2	30	岡田高			
法学		1・2・3・4			○			2	30	岡田高			
食と健康		1・2・3・4				○		2	30	長尾			
いのちと科学		1・2・3・4	○					2	30	☆岡田玄、北台			
環境と科学		1・2・3・4		○				2	30	☆原田遼、内藤			
生活に役立つ力学		1・2・3・4			○			2	30	(吉野浩)			
地域社会と言語	1・2・3・4				○		2	30	小川俊				
論 理 現 考	アカデミック・ライティング	1		○			1		30	2単位以上	☆福田、目黒、草薙、朴、重丸、富田、 谷本、三浦、鈴木、中石		
	クリティカル・シンキング	1・2				○		1	30		☆岡田高、和台、北台、松高、川畑		
	プレゼンテーション演習	1				○		1	30		☆村上、栗原、市村、韓、辻文	令和8年度以降は開講しない	
地 域 課 題	国際社会の理解	2・3・4			○			2	30	2単位以上	☆上水流、岡田高、柳下、手島		
	地域情報発信論	2・3・4		○				2	30		☆広谷、藤井寛、吉田倫	集中講義	
	地域教養ゼミナールA(エリア型)	2・3・4	○		○			2	30				
	地域教養ゼミナールB(テーマ型)	2・3・4		○		○		2	30				
キ ャ リ ア 開 発	地域教養ゼミナールC(複合型)	2・3・4	○	○	○		2	30					
	キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4			○			2	30	2単位以上	☆原田淳、魚谷		
	ライフデザイン	2・3・4		○				2	30		☆岡田高、田中聡子、村上、川畑		
	ボランティア	2・3・4	○					2	30		手島	一部集中	
インターンシップ	2・3・4	○	○				2	30	原田淳 他				
ダ イ バ ー シ ン テ イ	リーダー論	3・4	○					2	30	2単位以上	☆原田淳、魚谷	集中講義	
	多様性理解(ジェンダー論)	2・3・4			○			2	30		澤田		
	人間関係論	2・3・4			○			2	30		勝見		
	人権論	2・3・4				○		2	30		岡田高		
	世界の宗教	2・3・4				○		2	30		上水流		
	世界の言語と文化	1・2・3・4				○		2	30		☆河村、馬本、上水流		
	海外研修	1・2・3・4	○	○	○	○		2	30		岡本、栗原		
全学共通教育科目選択(上記の科目から選択)										6単位以上			
入 門 演 習	英語入門演習	1	○	○					1	30	自由科目：卒業 要件としない	(笠本)	令和8年度以降は開講しない
	数学入門演習	1	○	○					1	30		岩田	
	生物入門演習	1	○	○					1	30		金岡	
	物理入門演習	1	○	○					1	30		米村	
	化学入門演習	1	○	○					1	30		小関	
		合 計								36単位以上			

□ 地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース（令和7年度入学生用）

科目区分 コア・ユニット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業 時間数	卒業要件	担当教員 (非常勤) ☆マークは代表教員	備考
			前 前	前 後	後 前	後 後	必修	選択	自由				
専門 教育 科目	学部 学科 共通 科目	多文化共生入門Ⅰ	1			○		2		30	10単位以上	☆草薨、植村、鄭遇、タインズ	多文化共生入門Ⅰ・Ⅱまたは 文化継承入門Ⅰ・Ⅱのうちから 選択必修(4単位)
		多文化共生入門Ⅱ	1			○		2		30		☆栗原、鄭銀、向居、上水流	
		文化継承入門Ⅰ	1			○		2		30		☆和田、岡本、杉山聖	
		文化継承入門Ⅱ	1			○		2		30		☆福田、小川俊、目黒、工藤	
		地誌学	1			○		2		30		(横川)	
		人文地理学	1			○		2		30		(横川)	
		自然地理学	1	○				2		30		(澤田結)	
		経営学概論	1	○				2		30		長桶	
		会計学概論	1		○			2		30		加納	
		マーケティング概論	1			○		2		30		栗島	
		簿記原理	1			○		2		30		加納	
		ファイナンス概論	1		○			2		30		村上恵	
		ミクロ経済学	1			○		2		30		山根	
		中級簿記	2	○				2		30		加納	
		地域政策論	2			○		2		30		和田	
		入門統計学	1	○				2		30		富田哲	
		IoT・情報システム基礎学	1		○			2		30		小川仁	
		経営情報論	1			○		2		30		広谷	
		基礎プログラミング入門	1			○		2		30		重丸	
		基礎情報学入門	1			○		2		30		小川仁	
		基礎情報活用演習	2	○				2		30		重丸	
		人工知能概論	2	○				2		30		市村	
		データサイエンス入門・同演習	2		○			2		30		富田哲	
		ITパスポート試験対策演習	1・2・3・4			○		1		30		小川仁	
		データ分析とプログラミング	1・2・3・4			○		2		30		野呂	
		人工知能応用基礎論	1・2・3・4			○		2		30		松井	
		生命科学	1	○				2		30		(木下)	
		基礎化学	1	○				2		30		(多山)	
		微生物学	3		○			2		30		(多山)	
		予防医学	1			○		1		15		安武	
		保健政策論	1			○		1		15		安武	
		公衆衛生学	3			○		1		15		菅井	
		環境衛生学	3			○		1		15		☆(秋田)、(杉山文)	集中講義
		健康科学情報処理演習	1			○		2		30		鍛島	
専門 教育 科目	多文化 共生 コア ユニ ット Ⅰ	多文化共生教育論	2			○		2		30	第一コアユ ニットⅠから 28単位以上、 第二コアユ ニットⅠから 12単位以上	植村	
		共生認知心理論	2			○		2		30		向居	
		英国社会文化論	2		○			2		30		(吉本)	
		米国社会文化論	2			○		2		30		栗原	
		英語文学論	2			○		2		30		(吉本)	
		英米文化史論	2		○			2		30		栗原	
		英語学	2	○				2		30		草薨	
		英語表現論	2			○		2		30		タインズ	
		英語音声学	2		○			2		30		(西原)	R11年度以降は開講しない
		英語コミュニケーション	2			○		2		30		草薨	
		メディア・イングリッシュ	2		○			2		30		(黒住)	セメスター
		日本語教育学	2			○		2		30		中石	
		多文化社会とことばの教育	2			○		2		30		中石	
		東アジア社会文化論	2	○				2		30		上水流	
		中国語文化論	2		○			2		30		工藤	
		韓国語文化論	2			○		2		30		鄭遇	
		東アジア比較文化論	2			○		2		30		鄭銀	
		国際関係学論	2		○			2		30		岡本	
	多文化 共生 コア ユニ ット Ⅱ	多文化共生マネジメント	3	○			2			30		植村	
		多文化共生教育論研究	3		○			2		30		植村	
		多文化共生社会と法	3			○		2		30		岡田高	
		共生認知心理論研究	3	○				2		30		向居	
		多文化接触と言語	3		○			2		30		馬本	
		英国社会文化論研究	3			○		2		30		(吉本)	
		米国社会文化論研究	3		○			2		30		栗原	
		英語文学論研究	3			○		2		30		(吉本)	
		英語学研究	3			○		2		30		草薨	
		英語表現論研究	3	○				2		30		タインズ	
		英文法	3	○				2		30		草薨	
		ディベート・プレゼンテーション	3	○				2		30		栗原、工藤、鄭遇	
		日本語教授法	3	○				2		30		中石	
		日本語教育実習	3		○			2		30		中石	集中講義
		東アジア社会文化論研究	3			○		2		30		上水流	
		韓国語文化論研究	3		○			2		30		鄭遇	
		東アジア比較文化論研究	3			○		2		30		鄭銀	

□ 地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース（令和7年度入学生用）

科目区分 コア・ユニット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業 時間数	卒業要件	担当教員 (非常勤) ☆マークは代表教員	備考
			前 前	前 後	後 前	後 後	必 修	選 択	自 由				
専 門 教 育 科 目	文化継承 コア ユニ ット I	観光まちづくり論	2			○		2		30	第一コアユニ ット・IIから 28単位以上、 第二コアユニ ット・IIから 12単位以上	和田	
		宮島学	2			○		2		30		☆大知、工藤、目黒、宇野、馬本	R9年度以降は開講しない
		日本文化史論	2		○			2		30		杉山聖	
		日本文化論	2		○			2		30		目黒	
		日本文学論(国文学)	2			○		2		30		(西本豪)	
		日本語表象論	2	○				2		30		福田	
		日本語文化論(日本語学)	2		○			2		30		小川俊	
		日本語音声学	2				○	2		30		(高永)	R11年度以降は開講しない
		中日対照言語学	2	○				2		30		(徐)	R11年度以降は開講しない
		東アジア地域史論	2		○			2		30		岡本	
		東アジア交流史論	2			○		2		30		(ハムゴト)	
		東アジア文学論(中国文学)	2	○				2		30		工藤	
		日中比較文学論	2			○		2		30		工藤	
		書誌学	2				○	2		30		目黒	
		書道・書写	2			○		2		30		(森哲)	セメスター開講
		博物館概論	2	○				2		30		杉山聖	
		生涯学習概論	2				○	2		30		(天野か)	集中講義
		文化継承マネジメント	3	○				2		30		☆小川俊、岡本、工藤、杉山聖、福 田、目黒、和田	
	文化継承 コア ユニ ット I	観光まちづくり論研究	3		○			2		30		和田	
		日本文化史論研究	3			○		2		30		杉山聖	
		日本文化論研究	3			○		2		30		目黒	R11年度以降は開講しない
		日本文学論研究	3		○			2		30		(西本豪)	
		日本語表象論研究	3			○		2		30		福田	
		日本語文化論研究	3	○				2		30		小川俊	
		東アジア地域史論研究	3			○		2		30		岡本	
		東アジア文学論研究	3		○			2		30		工藤	
		地域協働演習	3		○			2		30		☆重安ほか	
		卒業論文(専門演習)Ⅰa	3		○	○		2		30	「卒業論文 (専門演習) Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ a・Ⅱb」または 「地域課題解 決研究Ⅰa・ Ⅰb・Ⅱa・Ⅱ b」から8単位	コース教員	
	卒業論文・卒業研究	卒業論文(専門演習)Ⅰb	3		○	○		2		30		コース教員	卒業論文(専門演習)Ⅰaの単位を取得していること
		卒業論文(専門演習)Ⅱa	4		○	○		2		30		コース教員	卒業論文(専門演習)Ⅰbの単位を取得していること
		卒業論文(専門演習)Ⅱb	4		○	○		2		30		コース教員	卒業論文(専門演習)Ⅱaの単位を取得していること
		地域課題解決研究Ⅰa	3		○	○		2		30		学部教員	
		地域課題解決研究Ⅰb	3		○	○		2		30		学部教員	地域課題解決研究Ⅰaの単位を取得していること
		地域課題解決研究Ⅱa	4		○	○		2		30		学部教員	地域課題解決研究Ⅰbの単位を取得していること
		地域課題解決研究Ⅱb	4		○	○		2		30		学部教員	地域課題解決研究Ⅱaの単位を取得していること
	ユニ ット 外 科 目	上級英語総合(Critical Reading Ⅰ)	1	○				1		30	副専攻プロ グラム(多文化 コミュニケーション プログラム) から選択履修	草薨	
		上級英語総合(Critical Reading Ⅱ)	1			○		1		30		(吉本)	
		上級英語総合(Cross-Cultural Studies)	2	○				1		30		栗原	
		上級英語総合(Seminar)	2			○		1		30		栗原	
		上級英語表現(Global Communication Ⅰ)	1		○			1		30		タインズ	
		上級英語表現(Global Communication Ⅱ)	1				○	1		30		タインズ	
		上級英語表現(Presentation Ⅰ)	2		○			1		30		タインズ	
		上級英語表現(Presentation Ⅱ)	2				○	1		30		タインズ	
		中級中国語総合	1				○	1		30		(徐)	
		上級中国語総合	2		○			1		30		植村	
		中級中国語表現	2	○				1		30		工藤	
		上級中国語表現	2			○		1		30		工藤	
		中級韓国語総合	1				○	1		30		鄭遇	
		上級韓国語総合	2		○			1		30		鄭遇	
		中級韓国語表現	2	○				1		30		鄭銀	
		上級韓国語表現	2			○		1		30		鄭銀	
		外国語検定(英語)Ⅰ(認定)	1	認定	認定	認定	認定	1		30			
		外国語検定(英語)Ⅱ(認定)	1	認定	認定	認定	認定	1		30			
		外国語検定(英語)Ⅲ(認定)	1	認定	認定	認定	認定	2		30			
		外国語検定(中国語)Ⅰ(認定)	1	認定	認定	認定	認定	1		30			
		外国語検定(中国語)Ⅱ(認定)	1	認定	認定	認定	認定	1		30			
		外国語検定(中国語)Ⅲ(認定)	1	認定	認定	認定	認定	2		30			
		外国語検定(韓国語)Ⅰ(認定)	1	認定	認定	認定	認定	1		30			
		外国語検定(韓国語)Ⅱ(認定)	1	認定	認定	認定	認定	1		30			
		外国語検定(韓国語)Ⅲ(認定)	1	認定	認定	認定	認定	2		30			
	ユニ ット 外 科 目	博物館経営論	2				○	2		30	副専攻プロ グラム(学芸員) から選択履修	杉山聖	
		博物館資料論	2				○	2		30		(花本)	
		博物館資料保存論	3	○				2		30		大知	
		博物館展示論	3		○			2		30		大知	
		博物館教育論	3			○		2		30		(久下)	
		博物館情報・メディア論	3				○	2		30		小川仁	
		博物館実習	4	○				3		30		☆杉山聖、大知	
		合 計											
		卒業要件総合計						124				124単位以上	

□ 地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース（令和7年度入学生用）

科目区分 コア・ユニット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業 時間数	卒業要件	担当教員 (非常勤) ☆マークは代表教員	備考
			前 前	前 後	後 前	後 後	必 修	選 択	自 由				
その他科目（卒業要件外）	教育学概論	1				○			2	30		藤井宣	
	教職入門	1			○				2	30		(中村)	
	教育社会学	2	○						2	30		藤井宣	
	教育心理学	2		○					2	30		向居	
	特別支援教育	3		○					1	15		(平田)	
	教育課程論	2	○						2	30		(今井)	
	道徳教育論	3	○						2	30		(宮里)	集中講義
	総合的な学習の時間の指導法	3		○					2	30		(尾川)	
	特別活動論	3		○					2	30		(山田浩)	
	教育方法学	3			○				2	30		(深澤)	
	情報通信技術の活用	3				○			1	15		(松田)	R7年度のみ前期開講、 集中講義
	生徒・進路指導論	2				○			2	30		☆坪田、(児玉)	
	教育相談	3	○						2	30		(森田)	集中講義
	教育実習指導	4		○					1	15		向居	
	教育実習Ⅰ	4		○					2	60		向居	集中講義
	教育実習Ⅱ	4		○					2	60		向居	集中講義
	教職実践演習(中・高)	4				○			2	30		☆向居、(内田)	
	介護等体験	3			○				2	50		向居	
	国語科教育法Ⅰ	2				○			2	30		(谷口)	
	国語科教育法Ⅱ	3	○						2	30		(谷口)	
	国語科教育法Ⅲ	3		○					2	30		(出雲)	
	国語科教育法Ⅳ	3			○				2	30		(出雲)	
	英語科教育法Ⅰ	2				○			2	30		馬本	
	英語科教育法Ⅱ	3	○						2	30		馬本	
	英語科教育法Ⅲ	3		○					2	30		(山岡)	
	英語科教育法Ⅳ	3			○				2	30		(山岡)	

配当年次：学生に履修を推奨する年次（履修可能な年次ではない）。

各年次に配当する場合は例えば「1・2・3・4」のように記載している。⇒ 配当された年次のいずれかで履修すれば良い。

年次をまたがって配当する場合は例えば「3～4」のように記載している。⇒ 配当された年次全てで履修しなければならない。

開講期：○印が複数期に付されている場合は、いずれか可能な時期に履修すれば良い。ただし、クラス分けなどにより履修する時期が指定される場合がある。

単位数

必修：当該学科等の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目

選択：学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目（選択必修科目を含む）

自由：単位認定できるが卒業要件に算入しない科目

□ 地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース（令和7年度入学生用）

科目区分 コア・ユニット		科目名	配当年度	開講期				単位数			授業 時間数	卒業 要件	担当教員 (非常勤) ☆マークは代表教員	備考
				前 前	前 後	後 前	後 後	必修	選択	自由				
学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シ ー	大学基礎セミナーⅠ	1	○				1			30	12単位以上	☆重安、植村、鄭遇、足立、加納、 小川仁、松本、辻愛、原田淳、松高		
	大学基礎セミナーⅡ	1		○			1			30		☆鍛島、鄭銀、工藤、長橋、市村、 広谷、韓、栢下、古田、川畑		
	ICTリテラシーⅠ	1	○				1			30		佐々木、陳春、肖、小川仁、重安、岡部		
	ICTリテラシーⅡ	1			○			1		30		佐々木、陳春、肖、小川仁、重安		
	英語総合Ⅰ	1	○	○			1			30		(笠本)、(黒住)、(ホーソン寿栄)	クラスにより開講期異なる	
	英語総合Ⅱ	1			○	○	1			30		草薙、(笠本)、(黒住)、(ホーソン寿栄)		
	英語総合Ⅲ	2	○	○				1		30		(西原)、(ホーソン寿栄)、(黒住)		
	英語総合Ⅳ	2			○	○		1		30		(西原)		
	英語表現Ⅰ	1	○	○			1			30		(チャップマン)、(リー)、(カゼミ)		
	英語表現Ⅱ	1			○	○	1			30		(チャップマン)、(リー)、(カゼミ)		
	英語表現Ⅲ	2	○	○				1		30		(ボールドウィン)、(スティチェック)		
	英語表現Ⅳ	2			○	○		1		30		(ボールドウィン)		
	中国語Ⅰ	1・2	○	○				1		30		(袁)、(徐)		クラスにより開講期異なる 中国語・韓国語・ドイツ語は 各言語の母語話者、及び授 業の目標・内容を上回ること が明らかなレベルの言語能 力を履修登録時にすでに有 する者の受講は認めない。
	中国語Ⅱ	1・2			○	○		1		30		(袁)、(徐)		
	韓国語Ⅰ	1・2	○	○				1		30		鄭遇、鄭銀、(鞠)		
	韓国語Ⅱ	1・2			○	○		1		30		鄭遇、鄭銀、(鞠)		
	ドイツ語Ⅰ	1・2	○	○				1		30		(小田)	外国人留学生のみ対象	
	ドイツ語Ⅱ	1・2			○	○		1		30		(小田)		
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2	○					1		30		中石		
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2		○				1		30		中石		
スポーツ実技Ⅰ	1			○	○	1			30	辻文、(村上妃)、(黒坂)	クラスにより開講期異なる			
スポーツ実技Ⅱ	2			○			1		30	辻文				
保健体育理論	2				○		2		30	辻文				
全 学 共 通 教 育 科 目	学 際 知	哲学	1・2・3・4	○				2		30	10単位以上	大草		
		文学	1・2・3・4		○				2			30	福田	
		芸術	1・2・3・4			○			2			30	(佐々木悠)	
		心理学	1・2・3・4				○		2			30	向居	
		社会学	1・2・3・4	○					2			30	澤田	
		歴史学	1・2・3・4		○				2			30	岡本	
		倫理学	1・2・3・4			○			2			30	大草	令和7年度のみ第2Q開講
		経済学	1・2・3・4	○					2			30	山根	
		科学史	1・2・3・4	○					2			30	☆村田、馬本、菅、福永、八木、米村、 岩田、小林、長尾、吉野智、松崎	
		生命倫理	1・2・3・4		○				2			30	☆吉川、古山	
	論 理 現 思 考	基礎数学	1・2・3・4			○			2		30	富田哲		
		統計入門	1・2・3・4				○		2		30	富田哲		
		家族社会学	1・2・3・4				○		2		30	澤田		
		文化人類学	1・2・3・4		○				2		30	上水流		
		日本国憲法	1・2・3・4	○					2		30	岡田高		
		法学	1・2・3・4			○			2		30	岡田高		
		食と健康	1・2・3・4				○		2		30	長尾		
		いのちと科学	1・2・3・4	○					2		30	☆岡田玄、北台		
		環境と科学	1・2・3・4		○				2		30	☆原田浩、内藤		
		生活に役立つ力学	1・2・3・4			○			2		30	(吉野浩)		
地域社会と言語	1・2・3・4				○		2		30	小川俊				
地 域 課 題	アカデミック・ライティング	1			○		1			30	2単位以上	☆福田、目黒、草薙、朴、重丸、富田、 谷本、三浦、鈴木、中石		
	クリティカル・シンキング	1・2				○		1		30		☆岡田高、和田、北台、松高、川畑		
	プレゼンテーション演習	1				○		1		30		☆村上、栗原、市村、韓、辻文	令和8年度以降は開講しない	
	国際社会の理解	2・3・4			○			2		30		☆上水流、岡田高、柳下、手島		
	地域情報発信論	2・3・4		○				2		30		☆広谷、藤井宣、吉田倫	集中講義	
	地域教養ゼミナールA(エリア型)	2・3・4	○		○			2		30				
	地域教養ゼミナールB(テーマ型)	2・3・4		○		○		2		30				
	地域教養ゼミナールC(複合型)	2・3・4	○	○	○	○		2		30				
	キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4			○			2		30		☆原田淳、魚谷		
	ライフデザイン	2・3・4		○				2		30		☆岡田高、田中聡子、村上、川畑		
キ ャ リ ア 開 発	ボランティア	2・3・4	○					2		30	手島	一部集中		
	インターンシップ	2・3・4	○	○				2		30	原田淳 他			
	リーダー論	3・4	○					2		30	☆原田淳、魚谷	集中講義		
	ダイ バ ー シ テ ィ	多様性理解(ジェンダー論)	2・3・4			○			2		30	澤田		
		人間関係論	2・3・4				○			2	30	勝見		
		人権論	2・3・4					○		2	30	岡田高		
		世界の宗教	2・3・4					○		2	30	上水流		
		世界の言語と文化	1・2・3・4					○		2	30	☆河村、馬本、上水流		
	海外研修	1・2・3・4	○	○	○	○		2		30	岡本、栗原			
	全学共通教育科目選択(上記の科目から選択)											6単位以上		
入 門 演 習	英語入門演習	1	○	○					1	30	自由科目：卒業 要件としない	(笠本)	令和8年度以降は開講しない	
	数学入門演習	1	○	○					1	30		岩田		
	生物入門演習	1	○	○					1	30		金岡		
	物理入門演習	1	○	○					1	30		米村		
	化学入門演習	1	○	○					1	30		小関		
		合 計									36単位以上			

□ 地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース（令和7年度入学生用）

科目区分 コア・ユニット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業 時間数	卒業要件	担当教員 （非常勤） ☆マークは代表教員	備考
			前 前	前 後	後 前	後 後	必 修	選 択	自 由				
専門 教育 科目	学部 学 科 共 通 科 目	多文化共生入門Ⅰ	1		○			2		30	10単位以上修得 但し、 (1)経営コア ユニット選択予定者 は「経営学概論」 「会計学概論」 「マーケティング 概論」「簿記原 理」「ファイナ ンス概論」「ミ クロ経済学」「 中級簿記」の7 科目から8単 位を含む10単 位以上修得。 (2)情報コア ユニット選択予定 者は「入門統計 学」「IoT・情 報システム基礎 学」「基礎情報 学入門」の4科 目8単位以上修 得。	☆草薙、植村、鄭連、タインズ	
		多文化共生入門Ⅱ	1			○		2		30		☆栗原、鄭銀、向居、上水流	
		文化継承入門Ⅰ	1		○			2		30		☆和田、岡本、杉山聖	
		文化継承入門Ⅱ	1			○		2		30		☆福田、小川俊、目黒、工藤	
		地誌学	1		○			2		30		(横川)	
		人文地理学	1			○		2		30		(横川)	
		自然地理学	1	○				2		30		(澤田結)	
		経営学概論	1	○				2		30		長桶	
		会計学概論	1		○			2		30		加納	
		マーケティング概論	1		○			2		30		栗島	
		簿記原理	1		○			2		30		加納	
		ファイナンス概論	1		○			2		30		村上恵	
		ミクロ経済学	1			○		2		30		山根	
		中級簿記	2	○				2		30		加納	
		地域政策論	2		○			2		30		和田	
		入門統計学	1	○				2		30		富田哲	
		IoT・情報システム基礎学	1		○			2		30		小川仁	
		経営情報論	1		○			2		30		広谷	
		基礎プログラミング入門	1			○		2		30		重丸	
		基礎情報学入門	1			○		2		30		小川仁	
		基礎情報活用演習	2	○				2		30		重丸	
		人工知能概論	2	○				2		30		市村	
		データサイエンス入門・同演習	2		○			2		30		富田哲	
		ITパスポート試験対策演習	1・2・3・4		○			1		30		小川仁	
		データ分析とプログラミング	1・2・3・4			○		2		30		野呂	
		人工知能応用基礎論	1・2・3・4			○		2		30		松井	
	経営 CU 1	生命科学	1	○				2		30		(木下)	
		基礎化学	1	○				2		30		(多山)	
		微生物学	3		○			2		30		(多山)	
		予防医学	1		○			1		15		安武	
		保健政策論	1			○		1		15		安武	
		公衆衛生学	3		○			1		15		菅井	
		環境衛生学	3		○			1		15		☆(秋田)、(杉山文)	集中講義
		健康科学情報処理演習	1			○		2		30		鍛島	
		経営史	2		○			2		30		(張)	集中講義
		経営組織論	2		○			2		30		長桶	
		流通システム論	2			○		2		30		栗島	
		経営管理論	2		○			2		30		(平野)	集中講義
		工業簿記	2		○			2		30		足立	
		経営戦略論	2		○			2		30		朴	
	情報 CU 1	経営分析論	2		○			2		30	20単位以上 但し、 (1)経営コア ユニット選択者 は経営CU1の科 目から、16単 位以上 (2)情報コア ユニット選択者 は、情報CU1の 科目から、必 修科目を含め、 16単位以上 (3)情報CU1の 必修科目は、情 報コアユニット 選択者のみに 適用 ※次のページの 情報CU2にも2 年次配当科目 があるので注意 すること	足立	
		金融論	2	○				2		30		村上恵	
		マクロ経済学	2		○			2		30		山根	
		ベンチャービジネス論	2		○			2		30		(矢澤)	集中講義
		社会調査論	2		○			2		30		(中島)	集中講義
		人的資源管理論	2			○		2		30		(平野)	集中講義
		NPO論	2			○		2		30		(東郷)	集中講義
		パーソナルファイナンス論	2			○		2		30		村上恵	
		地域産業特別講義	2・3・4			○		2		30		☆栗島、山根、朴、長桶	
		サプライチェーンマネジメント	2		○			2		30		広谷	
		マネジメント工学	2	○				2		30		広谷	
		応用情報研究序論	2		○			2		30		☆重丸、市村、小川仁、折本、重安、肖、 陳 ^註 、富田 ^註 、韓、宇野、岡部、佐々木、 広谷、陳 ^註	
		プログラミング	2	○				2		30		宇野	
		線形代数	2	○				2		30		陳春	
		情報数学Ⅰ	2		○			2		30		折本	
		情報数学Ⅱ	2			○		2		30		市村	
		プログラミング演習	2		○			1		30		宇野	
		オペレーティングシステム	2			○		2		30		重安	
		データベース	2			○		2		30		岡部	
		システム開発論	2		○			2		30		折本	
		機械学習	2		○			2		30		岡部	
		知能情報学	2	○				2		30		韓	
		知能情報演習	2		○			1		30		韓	

□ 地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース（令和7年度入学生用）

科目区分 コア・ユニット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業 時間数	卒業要件	担当教員 （非常勤） ☆マークは代表教員	備考
			前 前	前 後	後 前	後 後	必 修	選 択	自 由				
専門 教育科目	経営 CU 2	国際経営論	3			○		2		30	30単位以上 但し、 (1)経営コア ユニット選択者は 経営CU2の科 目から、26単位 以上 (2)情報コア ユニット選択者 は、情報CU2の 科目から、必修 科目を含め、26 単位以上 (3)情報CU2の 必修科目は、 情報コアユニ ット選択者のみに 適用	長桶	
		サービスマーケティング論	3		○			2		30		栗島	
		財務会計論	3	○				2		30		(山崎)	
		税務会計論	3		○			2		30		☆加納、足立	
		イノベーション論	3		○			2		30		朴	
		コンテンツ産業論	3		○			2		30		(矢澤)	オンライン
		経営法務	3	○				2		30		(松原正)	
		管理会計論	3		○			2		30		足立	
		コーポレートファイナンス論	3	○				2		30		村上恵	
		ビジネスモデル論	3			○		2		30		(矢澤)	オンライン
		組織行動論	3		○			2		30		(平野)	集中講義
		マーケティングリサーチ	3			○		2		30		(川原)	
		技術マネジメント論	3			○		2		30		魚谷	
		NPO会計論	3			○		2		30		(山崎)	
		証券論	3			○		2		30		(鈴木喜)	
		行動経済学	3		○			2		30		山根	
		リスクマネジメント論	3				○	2		30		朴	
		知的財産権関連講座	3				○	2		30		川畑	
		監査論	3			○		2		30		(橘)	
		パブリックファイナンス論	3				○	2		30		(新宅)	
		企業法	3		○			2		30		(松原正)	
	情報 CU 2	画像情報処理	2		○			2		30		肖	
		プログラム言語処理	2		○			2		30		重安	
		情報ネットワーク	2				○	2		30		陳春	
		データ構造とアルゴリズム	2			○		2		30		陳訓	
		数値解析	3	○				2		30		重丸	
		音声情報処理	3	○				2		30		折本	
		ビッグデータ解析演習	3	○			1			30		岡部	
		応用情報システム特別講義	3	○	○			2		30		(菅原)	集中講義
		確率統計	3	○				2		30		富田哲	
		情報システム論	3		○			2		30		宇野	
		情報セキュリティ	3		○			2		30		佐々木	
		最適化理論	3		○			2		30		肖	
		情報ネットワーク実験	3		○			1		30		陳春	
		応用プログラミング	3			○		2		30		佐々木	
		データマイニング	3			○		2		30		陳訓	
		技術英語講読Ⅰ	3		○			1		30		韓、広谷	
		グラフィカルプログラミング	3			○		2		30		宇野	
		多変量解析	3			○		2		30		韓	
		情報セキュリティ実験	3				○	1		30		佐々木	
		Webインテリジェンス	3			○		2		30		岡部	
		コンピュータシミュレーション	3			○		2		30		重丸	
		モバイルネットワークシステム	3		○			2		30		重安	
		IoT・AI特別講義	3				○	2		30		☆肖、岡部、富田哲、陳春	
		技術英語講読Ⅱ	3				○	1		30		肖、折本	
		ニューラルネットワーク	3			○		2		30		肖	
		深層学習	3			○		2		30		市村	
	地域協働演習	地域協働演習	3		○			2		30		重安	
	卒業 論文・ 卒業 研究	地域課題解決研究Ⅰa	3		○	○		2		30	「専門演習Ⅰa・ Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb」 または「地域課 題解決研究Ⅰ a・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱ b」から8単位	学部教員	
		地域課題解決研究Ⅰb	3		○	○		2		30		学部教員	地域課題解決研究Ⅰaの単位を取得していること
		地域課題解決研究Ⅱa	4		○	○		2		30		学部教員	地域課題解決研究Ⅰbの単位を取得していること
		地域課題解決研究Ⅱb	4		○	○		2		30		学部教員	地域課題解決研究Ⅱaの単位を取得していること
		経営学専門演習Ⅰa	3		○	○		2		30		足立、栗島、朴、村上恵、山根、加納、長桶	
		経営学専門演習Ⅰb	3		○	○		2		30		足立、栗島、朴、村上恵、山根、加納、長桶	経営学専門演習Ⅰaの単位を取得していること
		経営学専門演習Ⅱa	4		○	○		2		30		足立、栗島、朴、村上恵、山根、加納、長桶	経営学専門演習Ⅰbの単位を取得していること
		経営学専門演習Ⅱb	4		○	○		2		30		足立、栗島、朴、村上恵、山根、加納、長桶	経営学専門演習Ⅱaの単位を取得していること
		応用情報システム専門演習Ⅰa	3		○	○		2		30		市村、小川仁、折本、重安、肖、陳春、富田哲、韓、宇野、岡部、佐々木、重丸、広谷、陳訓	
		応用情報システム専門演習Ⅰb	3		○	○		2		30		市村、小川仁、折本、重安、肖、陳春、富田哲、韓、宇野、岡部、佐々木、重丸、広谷、陳訓	応用情報システム専門演習Ⅰaの単位を取得していること
		応用情報システム専門演習Ⅱa	4		○	○		2		30		市村、小川仁、折本、重安、肖、陳春、富田哲、韓、宇野、岡部、佐々木、重丸、広谷、陳訓	応用情報システム専門演習Ⅰbの単位を取得していること
		応用情報システム専門演習Ⅱb	4		○	○		2		30		市村、小川仁、折本、重安、肖、陳春、富田哲、韓、宇野、岡部、佐々木、重丸、広谷、陳訓	応用情報システム専門演習Ⅱaの単位を取得していること
		合 計						88			88単位以上		
		卒業要件総合計						124			124単位以上		
自由 科目 選 択	IoTシステム開発プロジェクト演習	3				○		2		60	自由科目：卒業 要件としない	☆宇野、市村、小川仁、折本、重安、肖、陳春、富田哲、韓、岡部、佐々木、重丸、広谷、陳訓	
	AIシステム開発プロジェクト演習	3					○	2		60		☆岡部、市村、小川仁、折本、重安、肖、陳春、富田哲、韓、宇野、佐々木、重丸、広谷、陳訓	
	基本情報技術者試験対策演習	2・3・4				○		1		30		小川仁	

配当年次：学生に履修を推奨する年次(履修可能な年次ではない)。

各年次に配当する場合は例えば「1・2・3・4」のように記載している。⇒配当された年次のいずれかで履修すれば良い。

年次をまたがって配当する場合は例えば「3～4」のように記載している。⇒配当された年次全てで履修しなければならない。

開講期：○印が複数期に付されている場合は、いずれか可能な時期に履修すれば良い。ただし、クラス分けなどにより履修する時期が指定される場合がある。

単位数

必修：当該学科等の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目

選択：学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目(選択必修科目を含む)

自由：単位認定できるが卒業要件に算入しない科目

□ 地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース（令和7年度入学生用）

科目区分 コア・ユニット		科目名	配当年次	開講期				単位数			授業 時間数	卒業 要件	担当教員 (非常勤) ☆マークは代表教員	備考
				前 前	前 後	後 前	後 後	必修	選択	自由				
学び スキル ・ リテラシー	大学基礎セミナーⅠ	1	○				1			30	12単位以上	☆重安、植村、鄭過、足立、加納、 小川仁、松本、辻愛、原田淳、松高		
	大学基礎セミナーⅡ	1		○			1			30		☆鍛冶、鄭銀、工藤、長橋、市村、 広谷、韓、柘下、古田、川畑		
	ICTリテラシーⅠ	1	○				1			30		佐々木、陳春、肖、小川仁、重安、岡部		
	ICTリテラシーⅡ	1			○			1		30		佐々木、陳春、肖、小川仁、重安		
	英語総合Ⅰ	1	○	○			1			30		(笠本)、(黒住)、(ホーソン寿栄)		
	英語総合Ⅱ	1			○	○	1			30		草薙、(笠本)、(黒住)、(ホーソン寿栄)		
	英語総合Ⅲ	2	○	○				1		30		(西原)、(ホーソン寿栄)、(黒住)		
	英語総合Ⅳ	2			○	○		1		30		(西原)	クラスにより開講期異なる	
	英語表現Ⅰ	1	○	○			1			30		(チャップマン)、(リー)、(カゼミ)		
	英語表現Ⅱ	1			○	○	1			30		(チャップマン)、(リー)、(カゼミ)		
	英語表現Ⅲ	2	○	○				1		30		(ボールドウィン)、(スティチェック)		
	英語表現Ⅳ	2			○	○		1		30		(ボールドウィン)		
	中国語Ⅰ	1・2	○	○				1		30		(袁)、(徐)	クラスにより開講期異なる	
	中国語Ⅱ	1・2			○	○		1		30		(袁)、(徐)		
	韓国語Ⅰ	1・2	○	○				1		30		鄭過、鄭銀、(鞠)	中国語・韓国語・ドイツ語は 各言語の母語話者、及び授 業の目標・内容を上回ること が明らかなレベルの言語能 力を履修登録時にすでに有 する者の受講は認めない。	
	韓国語Ⅱ	1・2			○	○		1		30		鄭過、鄭銀、(鞠)		
	ドイツ語Ⅰ	1・2	○	○				1		30		(小田)	外国人留学生のみ対象	
	ドイツ語Ⅱ	1・2			○	○		1		30		(小田)		
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2	○					1		30		中石		
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2		○				1		30		中石		
	スポーツ実技Ⅰ	1			○	○	1			30	辻文、(村上妃)、(黒坂)	クラスにより開講期異なる		
	スポーツ実技Ⅱ	2			○			1		30	辻文			
	保健体育理論	2				○		2		30	辻文			
	全学 共通 教育 科目	学 際 知	哲学	1・2・3・4	○				2		30	10単位以上	大草	
			文学	1・2・3・4		○			2		30		福田	
			芸術	1・2・3・4			○		2		30		(佐々木悠)	
			心理学	1・2・3・4				○	2		30		向居	
			社会学	1・2・3・4	○				2		30		澤田	
歴史学			1・2・3・4		○			2		30	岡本			
倫理学			1・2・3・4			○		2		30	大草		令和7年度のみ第2Q開講	
経済学			1・2・3・4	○				2		30	山根			
科学史			1・2・3・4	○				2		30	☆村田、馬本、菅、福永、八木、米村、 岩田、小林、長尾、吉野智、松崎			
生命倫理			1・2・3・4		○			2		30	☆吉川、古山			
基礎数学			1・2・3・4			○		2		30	富田哲			
統計入門			1・2・3・4				○	2		30	富田哲			
家族社会学			1・2・3・4				○	2		30	澤田			
文化人類学			1・2・3・4	○				2		30	上水流			
日本国憲法			1・2・3・4	○				2		30	岡田高			
法学			1・2・3・4			○		2		30	岡田高			
食と健康		1・2・3・4				○	2		30	長尾				
論 理 表 現 思 考		いのちと科学	1・2・3・4	○				2		30	☆岡田玄、北台			
		環境と科学	1・2・3・4		○			2		30	☆原田浩、内藤			
		生活に役立つ力学	1・2・3・4			○		2		30	(吉野浩)			
		地域社会と言語	1・2・3・4				○	2		30	小川俊			
		アカデミック・ライティング	1			○		1		30	☆福田、目黒、草薙、朴、重丸、富田、 谷本、三浦、鈴木、中石			
		クリティカル・シンキング	1・2				○	1		30	☆岡田高、和田、北台、松高、川畑			
		プレゼンテーション演習	1				○	1		30	☆村上、栗原、市村、韓、辻文	令和8年度以降は開講しない		
		国際社会の理解	2・3・4			○		2		30	☆上水流、岡田高、柳下、手島			
		地域情報発信論	2・3・4		○			2		30	☆広谷、藤井宣、吉田倫	集中講義		
		地域教養ゼミナールA(エリア型)	2・3・4	○		○		2		30				
		地域教養ゼミナールB(テーマ型)	2・3・4		○		○	2		30				
	地域教養ゼミナールC(複合型)	2・3・4	○	○	○	○	2		30					
キ ャ リ ア 開 発	キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4			○		2		30	2単位以上	☆原田淳、魚谷			
	ライフデザイン	2・3・4			○		2		30		☆岡田高、田中聡子、村上、川畑			
	ボランティア	2・3・4	○				2		30		手島	一部集中		
	インターンシップ	2・3・4	○	○			2		30		原田淳 他			
ダ イ バ ー シ ン テ イ	リーダー論	3・4	○				2		30	☆原田淳、魚谷	集中講義			
	多様性理解(ジェンダー論)	2・3・4			○		2		30	澤田				
	人間関係論	2・3・4			○		2		30	勝見				
	人権論	2・3・4				○	2		30	岡田高				
	世界の宗教	2・3・4				○	2		30	上水流				
	世界の言語と文化	1・2・3・4				○	2		30	☆河村、馬本、上水流				
	海外研修	1・2・3・4	○	○	○	○	2		30	岡本、栗原				
	全学共通教育科目選択(上記の科目から選択)										6単位以上			
入 門 演 習	英語入門演習	1	○	○				1	30	自由科目:卒業 要件としない	(笠本)	令和8年度以降は開講しない		
	数学入門演習	1	○	○				1	30		岩田			
	生物入門演習	1	○	○			1	30	金岡					
	物理入門演習	1	○	○			1	30	米村					
	化学入門演習	1	○	○			1	30	小関					
	合計										36単位以上			

□ 地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース（令和7年度入学生用）

科目区分 コア・ユニット		科目名	配当年次	開講期				単位数			授業 時間数	卒業要件	担当教員 (非常勤) ☆マークは代表教員	備考
				前 前	前 後	後 前	後 後	必 修	選 択	自 由				
専 門 教 育 科 目	学 部 学 科 共 通 科 目	多文化共生入門Ⅰ	1			○			2		30	10単位以上	☆草薙、植村、鄭遇、タインズ	
		多文化共生入門Ⅱ	1				○		2		30		☆栗原、鄭銀、向居、上水流	
		文化継承入門Ⅰ	1			○			2		30		☆和田、岡本、杉山聖	
		文化継承入門Ⅱ	1				○		2		30		☆福田、小川俊、目黒、工藤	
		地誌学	1			○			2		30		(横川)	
		人文地理学	1				○		2		30		(横川)	
		自然地理学	1	○					2		30		(澤田結)	
		経営学概論	1	○					2		30		長桶	
		会計学概論	1		○				2		30		加納	
		マーケティング概論	1			○			2		30		栗島	
		簿記原理	1			○			2		30		加納	
		ファイナンス概論	1		○				2		30		村上恵	
		ミクロ経済学	1				○		2		30		山根	
		中級簿記	2	○					2		30		加納	
		地域政策論	2			○			2		30		和田	
		入門統計学	1	○					2		30		富田哲	
		IoT・情報システム基礎学	1		○				2		30		小川仁	
		経営情報論	1			○			2		30		広谷	
		基礎プログラミング入門	1				○		2		30		重丸	
		基礎情報学入門	1				○		2		30		小川仁	
		基礎情報活用演習	2	○					2		30		重丸	
		人工知能概論	2	○					2		30		市村	
		データサイエンス入門・同演習	2		○				2		30		富田哲	
		ITパスポート試験対策演習	1・2・3・4			○			1		30		小川仁	
		データ分析とプログラミング	1・2・3・4				○		2		30		野呂	
		人工知能応用基礎論	1・2・3・4				○		2		30		松井	
		生命科学	1	○					2		30		(木下)	
		基礎化学	1	○					2		30		(多山)	
		微生物学	3		○				2		30		(多山)	
		予防医学	1			○		1			15		安武	
		保健政策論	1				○	1			15		安武	
		公衆衛生学	3			○		1			15		菅井	
		環境衛生学	3			○		1			15		☆(秋田)、(杉山文)	集中講義
		健康科学情報処理演習	1				○	2			30		鍛島	
	運 動 ・ 生 体	基礎生化学	1		○			2			30	20単位以上	岡田玄	
		生化学	1			○		2			30		岡田玄	
		生化学実験	1				○	1			30		岡田玄	
		解剖学・病理学Ⅰ	1			○		2			30		北台	
		解剖学・病理学Ⅱ	1				○		2		30		北台	
		解剖学・病理学実習	2		○			1			30		北台	
		生理学	1				○	2			30		辻文	
		生理学実験	2		○			1			30		辻文	
		健康スポーツ科学	1		○			2			30		鍛島	
		運動生理学	2	○				2			30		鍛島	
		運動生理学実験	2			○		1			30		鍛島	
		体力科学	2			○		2			30		三浦	
		トレーニング科学	2	○				2			30		三浦	
		体力評価実習	2				○	1			30		三浦	
	食	スポーツ科学実習	1	○				1			30	24単位以上	三浦	
		スポーツ医学	3	○				2			30		鍛島	
		分析化学	1		○			2			30		岡田玄	
		分析化学実験	1			○		1			30		岡田玄	
		食品学	1		○			2			30		谷本	
		食品化学	3			○		2			30		谷本	
		食品学実験	1				○	1			30		谷本	
		食品加工学	1			○		2			30		谷本	
		食品加工学実験	2		○			1			45		杉山寿	
		食品衛生学	2				○	2			30		馬淵	
		食品衛生学実験	3		○			1			30		谷本	
		調理学	2	○				2			30		杉山寿	
		調理学実験	2			○		1			45		☆杉山寿、(戸松)	
		基礎栄養学	1				○	2			30		山岡	
		基礎栄養学実験	2	○				1			30		山岡	
		応用栄養学	2	○				2			30		栢下	
		ライフステージ栄養学	2			○			2		30		辻愛	
		スポーツ栄養学	2		○				2		30		山岡	
		応用栄養学実習	2				○	1			30		辻愛	

□ 地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース（令和7年度入学生用）

科目区分 コア・ユニット		科目名	配当年次	開講期					単位数			授業 時間数	卒業要件	担当教員 (非常勤) ☆マークは代表教員	備考
				前 前	前 後	後 前	後 後	必 修	選 択	自 由					
専門 教育 科目	健康	栄養教育概論	1		○				2			30	26単位以上	栢下	
		世代別栄養教育論	2	○					2			30		森脇	
		臨床栄養教育論	2					○		2		30		☆栢下、(眞次)	
		栄養教育論実習Ⅰ	2		○				1			30		栢下	
		栄養教育論実習Ⅱ	2					○	1			30		栢下	
		臨床医学	2	○						2		30		北台	
		臨床栄養学Ⅰ	2				○		2			30		神原	
		臨床栄養学Ⅱ	2					○	2			30		神原	
		臨床栄養アセスメント	3	○						2		30		神原	
		病態別栄養マネジメント	3		○					2		30		☆神原、(天野純)	
		臨床栄養学実習Ⅰ	3		○				1			30		神原	
		臨床栄養学実習Ⅱ	3				○		1			30		神原	
		臨床栄養臨地実習Ⅰ	3					○		1		30		栢下	
		臨床栄養臨地実習Ⅱ	3					○		1		30		岡田玄	
		臨床栄養臨地実習Ⅲ	3					○		1		30		神原	
		公衆栄養学	3	○					2			30		森脇	
		地域栄養論	3		○					2		30		森脇	
		公衆栄養学実習	3				○		1			30		森脇	
		地域保健臨地実習	3					○		1		30		森脇	
		給食栄養・安全管理論	2					○	2			30		杉山寿	
		給食経営管理論	3	○						2		30		杉山寿	
		給食経営管理実習	3	○					1			45		☆杉山寿、(藤原)	
		給食経営管理臨地実習Ⅰ	3					○		1		30		杉山寿	
		給食経営管理臨地実習Ⅱ	4	○						1		30		杉山寿	
		総合演習	3				○			1		15		☆栢下、杉山寿、森脇、岡田玄、神原	
		健康科学総合演習	3					○		1		15		☆神原、栢下、杉山寿、森脇、岡田玄	
	地域協働演習	3		○					2		30	学部教員			
	卒業論文・ 卒業研究	卒業論文Ⅰa	3	○			○		2		30	「卒業論文Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb」または「地域課題解決研究Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb」から8単位	栢下、北台、杉山寿、谷本、三浦、森脇、山岡、岡田玄、銀島、神原、辻愛、辻文		
		卒業論文Ⅰb	3	○			○		2		30		栢下、北台、杉山寿、谷本、三浦、森脇、山岡、岡田玄、銀島、神原、辻愛、辻文	卒業論文Ⅰaの単位を取得していること	
		卒業論文Ⅱa	4	○			○		2		30		栢下、北台、杉山寿、谷本、三浦、森脇、山岡、岡田玄、銀島、神原、辻愛、辻文	卒業論文Ⅰbの単位を取得していること	
		卒業論文Ⅱb	4	○			○		2		30		栢下、北台、杉山寿、谷本、三浦、森脇、山岡、岡田玄、銀島、神原、辻愛、辻文	卒業論文Ⅱaの単位を取得していること	
		地域課題解決研究Ⅰa	3	○			○		2		30		学部教員		
		地域課題解決研究Ⅰb	3	○			○		2		30		学部教員	地域課題解決研究Ⅰaの単位を取得していること	
		地域課題解決研究Ⅱa	4	○			○		2		30		学部教員	地域課題解決研究Ⅰbの単位を取得していること	
		地域課題解決研究Ⅱb	4	○			○		2		30		学部教員	地域課題解決研究Ⅱaの単位を取得していること	
			合 計									88単位以上			
			卒業要件総合計									124単位以上			
その他科目（卒業要件外）	教職関連科目	学校栄養教育論Ⅰ	3	○						2	30	☆杉山寿、辻愛			
		学校栄養教育論Ⅱ	3				○			2	30	☆杉山寿、山岡、辻愛			
		教育学概論	1					○		2	30	藤井宣			
		教職入門	1				○			2	30	(中村)			
		教育社会学	2	○						2	30	藤井宣			
		教育心理学	2		○					2	30	向居			
		特別支援教育	3			○				1	15	(平田)			
		教育課程論	2	○						2	30	(今井)			
		道徳教育論	3	○						2	30	(宮里)	集中講義		
		総合的な学習の時間の指導法	3			○				2	30	(尾川)			
		特別活動論	3		○					2	30	(山田浩)			
		教育方法学	3				○			2	30	(深澤)			
		生徒指導論	2				○	○		2	30	坪田	集中講義		
		教育相談	3	○						2	30	(森田)	集中講義		
		教育実習指導(栄養教諭)	4	○						1	15	☆山岡、栢下、森脇、辻愛			
		教育実習(栄養教諭)	4	○						1	30	☆山岡、辻愛	集中講義		
		教職実践演習(栄養教諭)	4				○			2	30	☆山岡、辻愛	集中講義		

配当年次：学生に履修を推奨する年次(履修可能な年次ではない)。

各年次に配当する場合は例えば「1・2・3・4」のように記載している。⇒ 配当された年次のいずれかで履修すれば良い。

年次をまたがって配当する場合は例えば「3～4」のように記載している。⇒ 配当された年次全てで履修しなければならない。

開講期：○印が複数期に付されている場合は、いずれか可能な時期に履修すれば良い。ただし、クラス分けなどにより履修する時期が指定される場合がある。

単位数

必修：当該学科等の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目

選択：学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目(選択必修科目を含む)

自由：単位認定できるが卒業要件に算入しない科目

※1 専門科目のうち、「解剖学・病理学Ⅰ」「生理学」「調理学」「スポーツ栄養学」「体力科学」「臨床栄養学Ⅱ」「地域栄養論」については履修登録上限単位数の計算から除外し

※2 地域課題解決研究Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱbを履修するためには、地域課題解決研究Ⅱbを履修するまでに全学共通教育の科目区分「地域課題」の中から「地域教養ゼミナール(A又はB)」を含む2単位以上を修得すること。ただし、地域課題解決研究Ⅱbと並行して受講しても差し支えない。

※3 卒業論文Ⅰa・Ⅰb、地域課題解決研究Ⅰa・Ⅰbの履修について：卒業論文Ⅰa・Ⅰb、地域課題解決研究Ⅰa・Ⅰbを履修するためには、「原則、全学共通科目と専門教育科目を合わせて70単位以上を修得していること(自由科目を除く)」とする。

※4 卒業論文Ⅱa・Ⅱb、地域課題解決研究Ⅱa・Ⅱbの履修について：卒業論文Ⅱa・Ⅱb、地域課題解決研究Ⅱa・Ⅱbを履修するためには、「原則、卒業論文Ⅰa・Ⅰb、地域課題解決研究Ⅰa・Ⅰbを修得し、全学共通科目26単位、専門教育科目80単位以上を修得していること(自由科目を除く)」とする。

大学等名	県立広島大学（地域創生学部）	申請レベル	応用基礎レベル（学部・学科等単位）
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育に関する応用基礎プログラム（地域創生学部）	申請年度	令和8年度

取組概要

【プログラムの目的】

- ・本教育プログラムは、数理・データサイエンス・AIの知識の活用により、地域や社会の課題に対してデータに基づく分析および課題解決を実践できる人材を育成することを目的に、地域創生学部全学生を対象とした分野横断的な教育を行う。

【身に付けられる能力】

- ・実データを対象とした分析およびAIの活用を自律的に実施できる応用力をリテラシーレベルよりも高いレベルで身に付ける。
- ・数理・統計・データサイエンス・AIに関する知識を体系的に深化させることで、課題設定からデータ収集、前処理、分析、評価に至る一連のプロセスを理解し、適切な手法を選択・適用できる能力を修得する。

【教育プログラムの構成】

- ・「人工知能応用基礎論」（2単位）
- ・「データ分析とプログラミング」（2単位）

【修了要件】

学部共通科目に配置する「人工知能応用基礎論」及び「データ分析とプログラミング」の2科目4単位を修得すること。